

青森県内の消費生活相談受付状況（令和4年4月～6月）のポイント

【相談全体に関して】

- 令和4年4～6月の消費生活相談件数は計 1,991 件で、前年同期と比較して 28 件（1.4%）の増加となっています。
- うち特殊詐欺の相談は計 136 件で、前年同期と比較し 57 件（29.5%）減少しました。これは、昨年度急増した、還付金詐欺の相談が減少したことが要因となっています。

【特徴・変化】

① 高齢者からの相談件数が増加傾向

- ・ 65歳以上の高齢者からの相談件数 686 件（前年同期比+31 件、増加率 4.7%）
- ・ 相談全体に占める割合 34.5%（← 前年同期 33.4%）

② 各年代の相談状況

- ・ 20歳未満からの相談件数 47 件（前年同期比+1 件、増加率 2.2%）
件数が多い相談：教養・娯楽サービス（インターネットゲームやアダルトサイトなど）
- ・ 20代からの相談件数 137 件（前年同期比▲5 件、減少率 3.5%）
件数が多い相談：教養・娯楽サービス（出会い系サイトやインターネットゲームなど）
- ・ 30代からの相談件数 180 件（前年同期比▲16 件、減少率 8.2%）
件数が多い相談：商品一般（フィッシング詐欺など）、金融・保険サービス（融資サービスなど）
- ・ 40代からの相談件数 278 件（前年同期比+26 件、増加率 10.3%）
件数が多い相談：被服品（衣類のネット通販など）、保健衛生品（化粧品の定期購入など）
- ・ 50代からの相談件数 338 件（前年同期比+20 件、増加率 6.3%）
件数が多い相談：保健衛生品（化粧品の定期購入など）
- ・ 60代からの相談件数 339 件（前年同期比▲7 件、減少率 2.0%）
件数が多い相談：保健衛生品（化粧品の定期購入など）

③ 還付金詐欺に関する相談が減少

- ・ 特殊詐欺に関する相談件数 136 件（前年同期比▲57 件、減少率 29.5%）
- ・ 相談全体に占める特殊詐欺の割合 6.8%（← 前年同期 9.8%）
- ・ 特殊詐欺のうち、還付金詐欺相談件数 29 件（前年同期比▲45 件、減少率 39.2%）

④ 定期購入に関する相談が増加

- ・ 定期購入（健康食品・化粧品等） 202 件（前年同期比+62 件、増加率 44.3%）

⑤ 副業に関する相談が減少

- ・ 副業（登録料を支払ったが稼げない等） 39 件（前年同期比▲11 件、減少率 22.0%）

⑥ 多重債務に関する相談が減少

- ・ 多重債務に関する相談 50 件（前年同期比▲21 件、減少率 29.6%）

令和4年4-6月における青森県内の消費生活相談状況

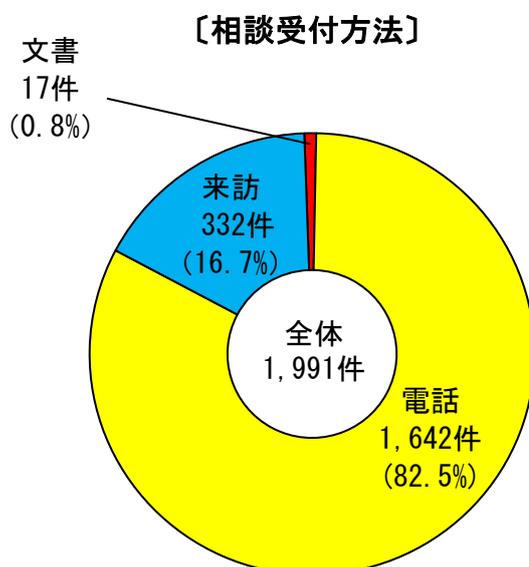
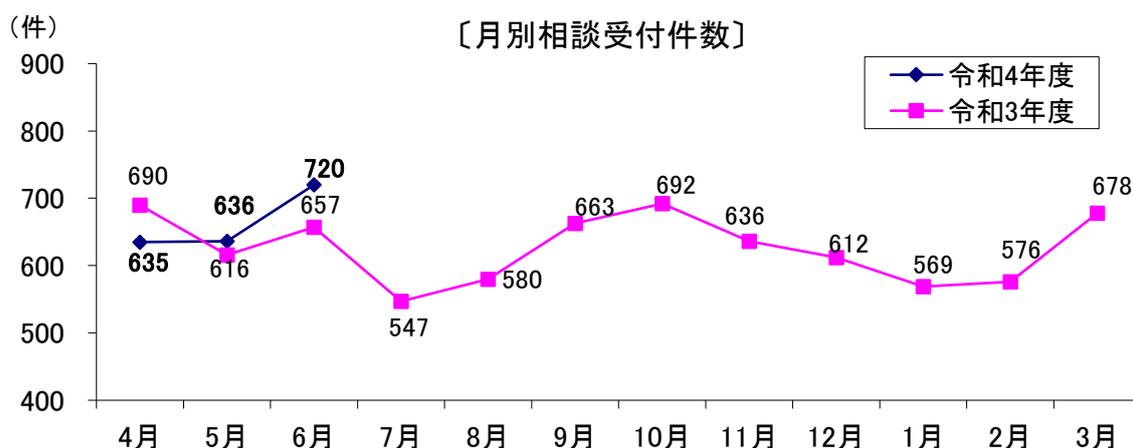
1 相談状況

(1) 概況

令和4年4-6月に県内の消費生活相談窓口で受け付けた消費生活に関する相談件数は、1,991件（苦情相談1,615件、問合せ375件、要望1件）であり、前年同期と比較して28件（1.4%）増加しています。

（単位：件）

項目	年度	令和4年 4-6月 (a)	令和3年 4-6月 (b)	増減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
苦情		1,615	1,598	17	101.1%
問合せ		375	365	10	102.7%
要望		1	0	1	-
計		1,991	1,963	28	101.4%

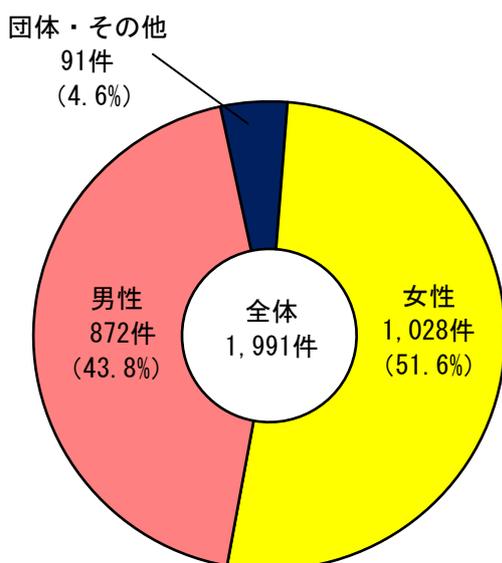


(2) 契約当事者の状況

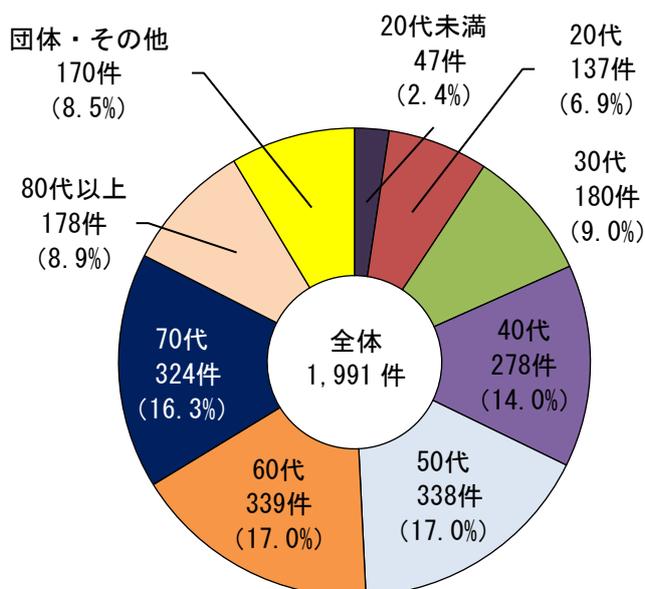
契約当事者を性別で見ると、女性が1,028件で、全体の51.6%を占めています。年代別では、60代が339件(17.0%)と最も多く、次いで50代が338件(17.0%)となっています。

また、契約当事者を職業別で見ると、給与生活者が775件(38.9%)と最も多く、次いで無職が742件(37.2%)となっています。

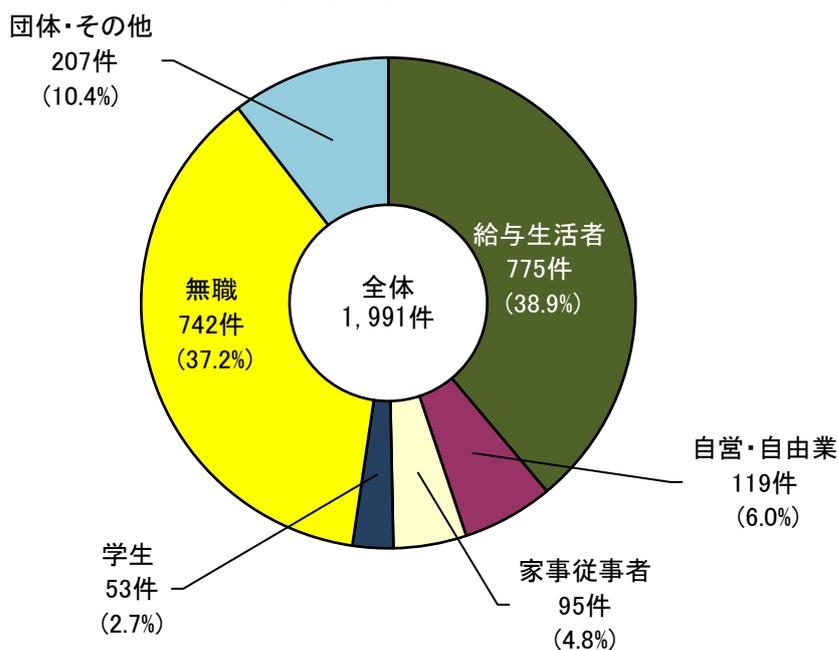
〔契約当事者の性別〕



〔契約当事者の年代〕



〔契約当事者の職業〕



(3) 主な商品・役務別の相談状況

(単位：件)

	商品・役務名	令和4年 4-6月 (a)	令和3年 4-6月 (b)	増減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
1	商品一般	226	232	▲6	97.4%
2	保健衛生品	201	137	64	146.7%
3	金融・保険サービス	174	164	10	106.1%
4	教養・娯楽サービス	151	168	▲17	89.9%
5	運輸・通信サービス	145	169	▲24	85.8%
	その他	1,094	1,093	1	100.1%
	計	1,991	1,963	28	101.4%

1 「商品一般」

令和4年4-6月の相談件数は226件で、前年同期より6件(2.6%)減少しています。商品一般は、商品が多岐にわたる相談や、商品を特定できない相談が分類されます。また、「消費料金」等の債務内容が不明な架空請求の相談や宅配業者等を騙るフィッシング詐欺に関する相談が含まれています。

2 「保健衛生品」

令和4年4-6月の相談件数は201件で、前年同期より64件(46.7%)増加しています。化粧品に関する相談が166件で全体の82.6%を占めています。保健衛生品のうち、149件は定期購入に関する相談となっており、件数が増加した要因となっています。

3 「金融・保険サービス」

令和4年4-6月の相談件数は174件で、前年同期より10件(6.1%)増加しています。最も多いのは、融資サービスに関する相談の90件で、前年同期103件から13件(12.6%)減少しています。次いで、クレジットカードの入退会に関する相談や暗号資産の投資に関する相談が含まれる他の金融関連サービスに関する相談が多くなっています。

4 「教養・娯楽サービス」

令和4年4-6月の相談件数は151件で、前年同期より17件(10.1%)減少しています。最も相談が多いのは、アダルト情報、映像配信サービスなどを含む娯楽等情報配信サービスに関する相談の64件で、前年同期とほぼ同程度となりました。出会い系サイトを含む他の教養・娯楽の相談が55件で、前年同期73件より18件(24.7%)減少したことが要因と考えられます。

5 「運輸・通信サービス」

令和4年4-6月の相談件数は145件で、前年同期より24件(14.2%)減少しています。

これは、光回線の卸売りの契約トラブルに関する相談を含むインターネット通信サービスに関する相談が61件で、前年同期の79件から18件(22.8%)減少したことで、固定電話に関する相談が15件で前年同期の23件から8件(34.8%)減少したことが要因と考えられます。

(4) 契約当事者年代別商品・役務相談状況（上位3位）

契約当事者の年代別の商品・役務別上位3位は以下の表のとおりとなっています。20歳未満、20代の若い世代では、教養・娯楽サービスが1位になっています。その内訳を見ると、20歳未満ではインターネットゲームやアダルト情報サイト、20代では出会い系サイト、インターネットゲームの相談が主となっています。

30代は、フィッシング詐欺などの商品一般、融資サービスなどの金融・保険サービスの相談が同数で1位となっています。また、70代、80代以上の1位も商品一般ですが、内訳としては架空請求や不審な電話やメールに関する相談が多い傾向にあります。

40代は、インターネット通販で購入した商品が届かない、届いたけれど粗悪品や偽ブランド品だったなどの被服品、化粧品の定期購入などの保健衛生品が同数で1位となっています。

50代、60代の1位の保健衛生品は化粧品の定期購入に関する相談が主となっています。

(単位：件)

	1		2		3	
20歳未満	教養・娯楽サービス	16	保健衛生品	8	食料品	5
20代	教養・娯楽サービス	21	レンタル・リース・貸借	15	金融・保険サービス	15
30代	商品一般	22	金融・保険サービス	22	教養・娯楽サービス	20
40代	被服品	32	保健衛生品	32	商品一般	26
50代	保健衛生品	55	商品一般	33	教養娯楽品	31
60代	保健衛生品	42	金融・保険サービス	33	商品一般	32
70代	商品一般	51	食料品	34	金融・保険サービス	30
80代以上	商品一般	21	食料品	18	運輸・通信サービス	18
その他・不明	商品一般	28	他の役務	16	金融・保険サービス	15

(5) 相談に係る契約等の既払金額

令和4年4-6月の相談に係る既払金額等の状況を見ると、お金を支払った人の数、既払金額の合計、最大既払額は増加しましたが、一人当たりの平均既払金額は減少しています。

	令和4年 4-6月 (a)	令和3年 4-6月 (b)	増減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
お金を支払った人の数	422人	382人	40人	110.5%
既払金額合計	171,077千円	161,373千円	9,704千円	106.0%
平均既払金額（一人当たり）	405千円	422千円	▲17千円	96.0%
最大既払額	28,300千円	19,150千円	9,150千円	147.8%

2 消費生活相談における特殊詐欺の状況

(1) 概況

令和4年4-6月の特殊詐欺に関する相談件数は136件で、前年同期より57件(29.5%)減少しています。類型別にみると、振り込み詐欺が82件(相談件数の60.3%)と最も多く、次いでワンクリック詐欺の24件(同17.6%)となっています。

振り込み詐欺のうち、還付金詐欺が29件で前年同期より45件(60.8%)減少しており、特殊詐欺の相談件数が大きく減少したことの主な要因となっています。

(単位：件)

類 型	年 度	令和4年 4-6月 (a)	令和3年 4-6月 (b)	増 減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
振り込み詐欺		82	124	▲42	66.1%
架空請求詐欺		53	50	3	106.0%
還付金詐欺		29	74	▲45	39.2%
融資保証金詐欺		0	0	0	-
オレオレ詐欺		0	0	0	-
ワンクリック詐欺		24	41	▲17	58.5%
金融商品取引名目詐欺		19	10	9	190.0%
その他の名目詐欺(宝くじ)		6	8	▲2	75.0%
異性との交際あっせん名目詐欺		3	10	▲7	30.0%
ギャンブル必勝法情報提供名目詐欺		2	0	2	皆増
合 計		136	193	▲57	70.5%

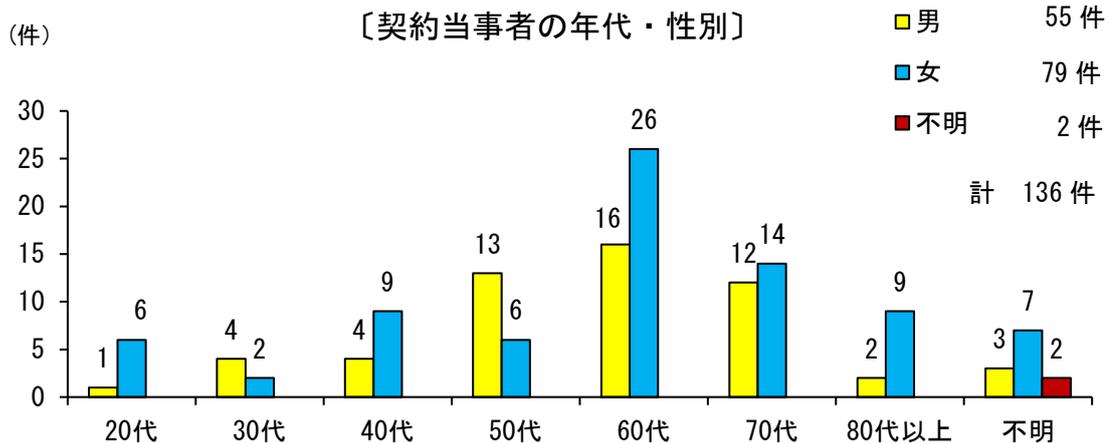
なお、それぞれの特殊詐欺の類型と、消費生活相談において分類される主な商品・役務名との対応関係は以下のとおりです。

(参考) 主な商品・役務別分類(P3)との対応状況 (令和3年度改正反映)

類型	主な商品・役務名	
振り込み詐欺	架空請求詐欺	商品一般、教養・娯楽サービス
	還付金詐欺	保健・福祉サービス
	融資保証金詐欺	金融・保険サービス
	オレオレ詐欺	相談その他
ワンクリック詐欺	教養・娯楽サービス	
金融商品取引名目詐欺	金融・保険サービス	
異性との交際あっせん名目詐欺	教養・娯楽サービス	
その他の名目詐欺(宝くじ)	教養・娯楽サービス	
ギャンブル必勝法情報提供名目詐欺	教養・娯楽サービス	

(2) 特殊詐欺に係る当事者の状況

令和4年4-6月における特殊詐欺に係る当事者を年代・性別でみると、60代女性の26件が最も多く、次いで60代男性の16件となっています。年代不明の相談も多くなっています。



(3) 特殊詐欺に係る既払金額

令和4年4-6月の特殊詐欺に係る既払金額等の状況をみると、お金を支払った人の数、既払金額合計、一人当たりの平均既払金額、最大既払額とも減少しています。

	令和4年 4-6月 (a)	令和3年 4-6月 (b)	増減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
お金を支払った人の数	18人	19人	▲1人	94.7%
既払金額合計	16,023千円	24,219千円	▲8,196千円	66.2%
平均既払金額(一人当たり)	890千円	1,275千円	▲385千円	69.8%
最大既払額	5,000千円	12,830千円	▲7,830千円	39.0%

3 相談全般における特徴

(1) 定期購入に関する相談が増加

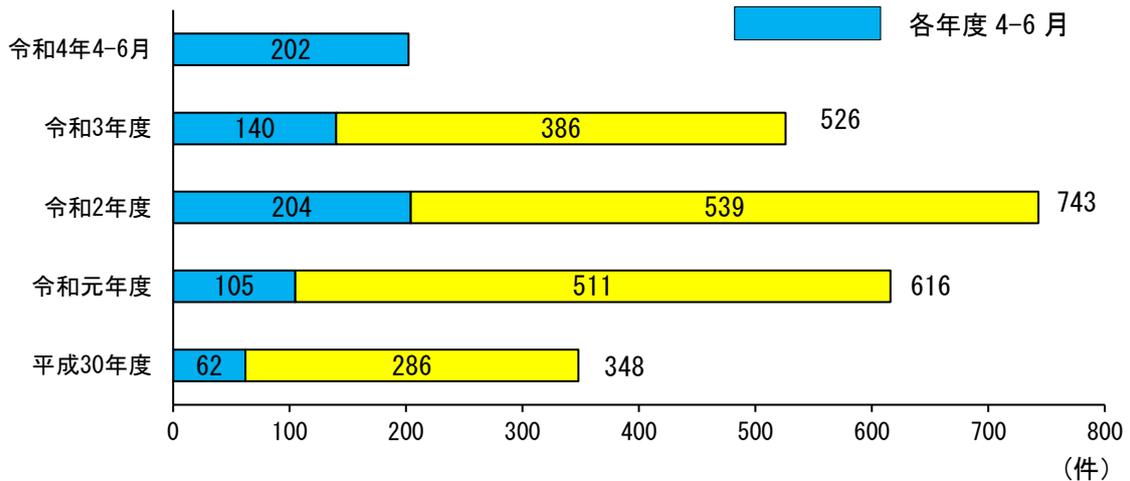
令和4年4-6月の定期購入に関する相談は202件で、前年同期より62件(44.3%)増加しました。定期購入に関する相談は、近年、増加傾向で推移しており、令和3年度に一旦減少しましたが、今期は、前年同期を上回っています。

また、対象となる商品は化粧品が139件で、前年同期より65件(87.8%)増加した一方、健康食品は39件で、前年同期より12件(23.5%)減少しています。医薬品が8件で、前年同期より7件(700.0%)増加していますが、これは主に水虫の治療薬によるものです。

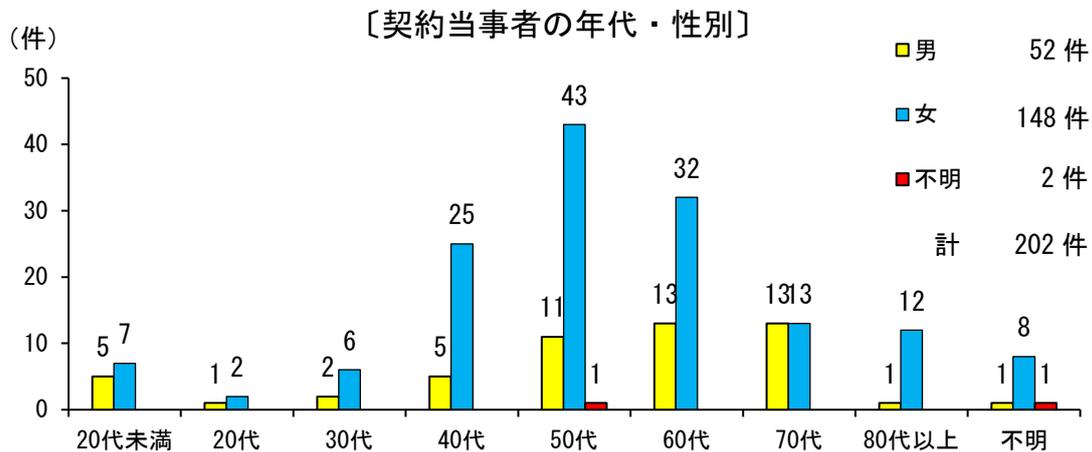
(単位：件)

商品・役務名	令和4年 4-6月 (a)	令和3年 4-6月 (b)	増減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
1 化粧品	139	74	65	187.8%
2 健康食品	39	51	▲12	76.5%
3 医薬品	8	1	7	800.0%
その他	16	14	2	114.3%
計	202	140	62	144.3%

〔定期購入に関する相談件数の推移〕



契約当事者の年代・性別でみると、50代女性が43件と最も多く、次いで60代女性が32件となっています。性別では、女性が148件と、全体の7割以上を占めています。



(2) 副業に関する相談が減少

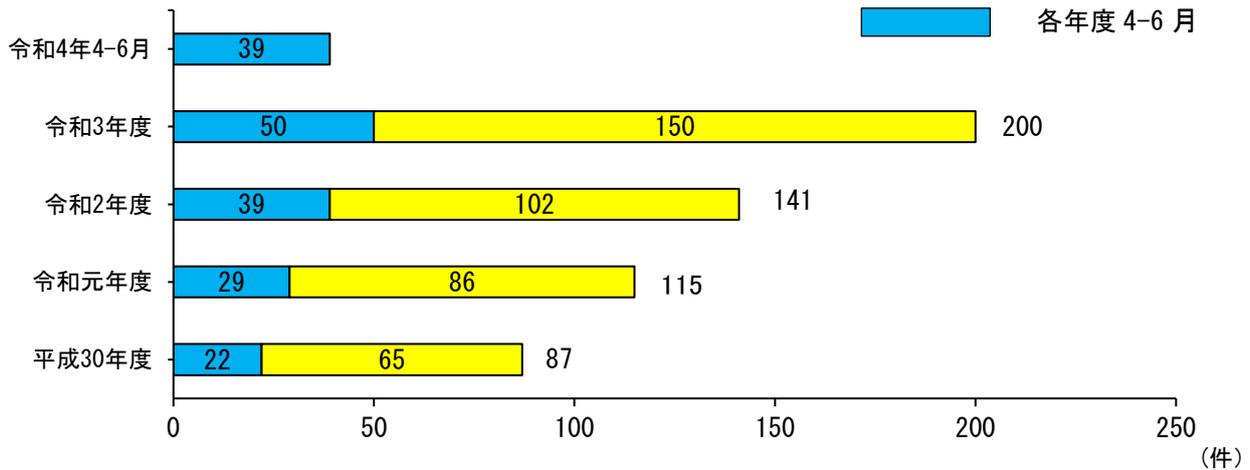
令和4年4-6月の副業に関する相談は39件で、前年同期より11件(22.0%)減少しました。過去5年間の相談件数の推移をみると、増加傾向にあった副業に関する相談がわずかに減少していることがわかります。

インターネットで副業を検索し、スマホの簡単な操作だけで楽に稼げるという副業サイトに登録してお金を支払ったが、説明と違って稼げないなどの相談がありました。

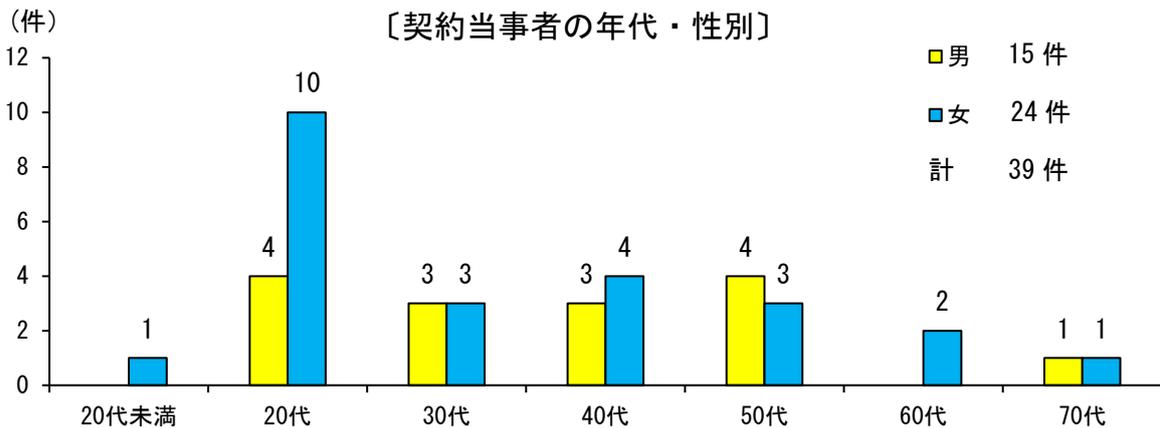
(単位：件)

	令和4年 4-6月 (a)	令和3年 4-6月 (b)	増減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
相 談 件 数	39	50	▲11	78.0%

〔副業に関する相談件数の推移〕



契約当事者の年代・性別の特徴を見ると、20代女性の10件が最も多く、次いで20代男性、40代女性、50代男性がそれぞれ4件となっています。20代以下が全体の38.5%を占めており、若年層に相談が多いのが特徴です。



(3) 18歳・19歳の相談状況

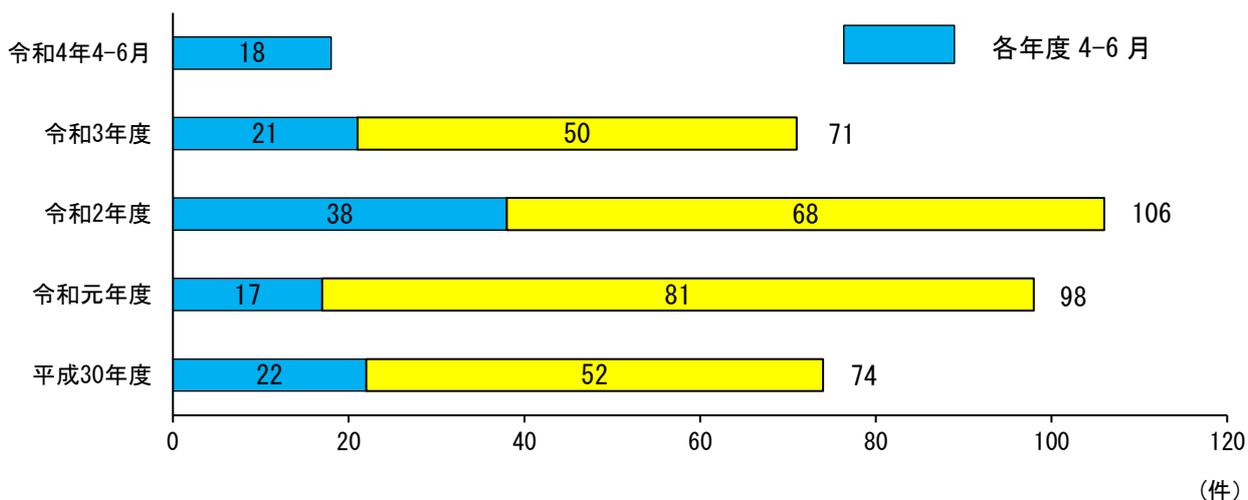
① 18歳・19歳の概況

令和4年4月1日から改正民法が施行され、成年年齢が20歳から18歳に引き下げられました。これに伴い、これまで未成年者取消権により、契約の取消しが可能だった、18歳、19歳の契約に関するトラブルが懸念されることから、この年代の相談状況に注目しています。

令和4年4-6月の18歳、19歳の相談件数は18件で、前年同期より3件(14.3%)減少しています。

過去5年間の18歳、19歳の相談件数を見ると、20歳未満の定期購入トラブルが増加した令和2年度をピークとして、令和3年度は減少しました。各年度の4-6月で比較すると、令和2年度を除き、ほぼ同水準の件数となっています。

[18・19歳の相談受付件数]



② 18歳・19歳の主な商品・役務別の相談状況

令和4年4-6月の18歳・19歳の相談では、教養娯楽品及び教養・娯楽サービスに関する相談がそれぞれ4件と最も多くなりました。次いで多いのは、保健衛生品の2件となっています。相談件数が多くないので、特に相談傾向は現れていない状況です。

(単位：件)

	商品・役務名	令和4年 4-6月 (a)	令和3年 4-6月 (b)	増減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
1	教養娯楽品	4	2	2	200.0%
	教養・娯楽サービス	4	6	▲2	66.7%
3	保健衛生品	2	1	1	200.0%
	その他	8	12	▲4	66.7%
	計	18	21	▲3	85.7%

4 65歳以上の高齢者の状況

(1) 全般

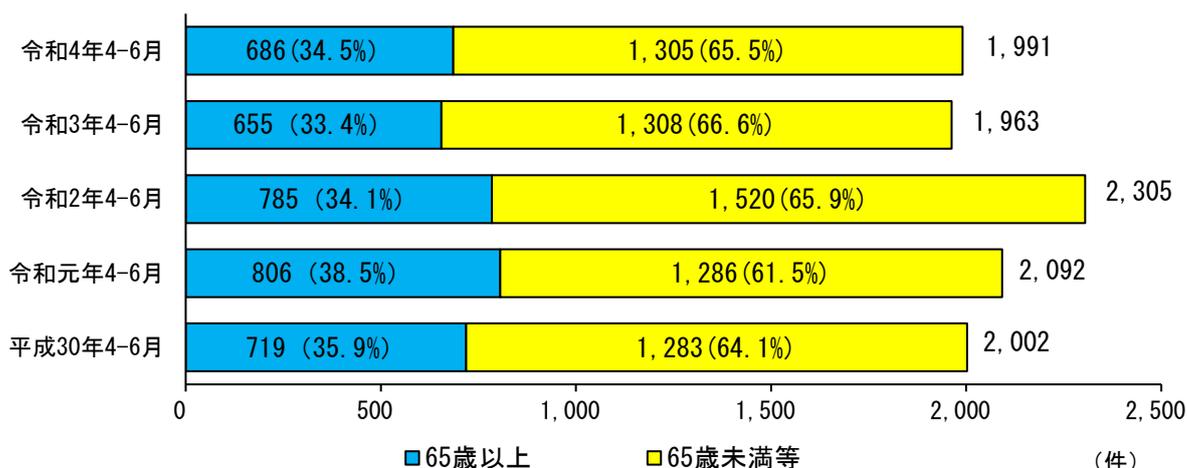
① 高齢者の概況

令和4年4-6月の高齢者の相談は686件で、前年同期と比較して31件(4.7%)増加しています。相談全体に占める割合は34.5%で前年同期の33.4%から1.1ポイント増加しています。

(単位：件)

項目	年度	令和4年 4-6月 (a)	令和3年 4-6月 (b)	増減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
苦情		517	517	0	100.0%
問合せ		169	138	31	122.5%
計		686	655	31	104.7%

〔高齢者の占める割合と相談件数の推移〕



② 高齢者の主な商品・役務別の相談状況

令和4年4-6月の高齢者の相談では、架空請求などが含まれる「商品一般」に関する相談が92件と最も多く、前年同期より2件(2.2%)増加しています。

次いで多いのは、金融・保険サービスの65件で、前年同期より24件(58.5%)増加しています。これは、火災保険や損害保険に関する相談が増加したことが要因の一つと考えられます。

次いで、保健衛生品の63件で、前年同期より28件(80.0%)増加しています。化粧品等の定期購入に関する相談が増加したことが主な要因となっています。

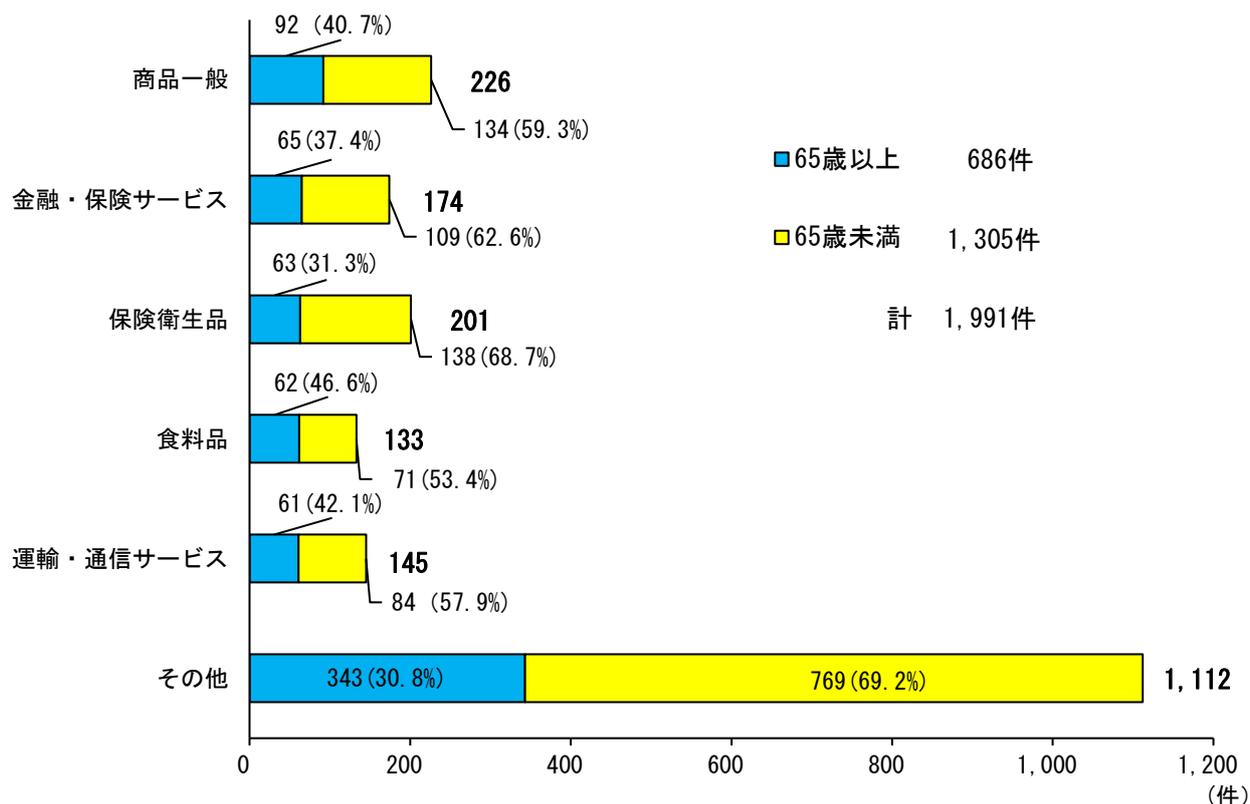
(単位：件)

	商品・役務名	令和4年 4-6月 (a)	令和3年 4-6月 (b)	増減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
1	商品一般	92	90	2	102.2%
2	金融・保険サービス	65	41	24	158.5%
3	保健衛生品	63	35	28	180.0%
4	食料品	62	63	▲1	98.4%
5	運輸・通信サービス	61	64	▲3	95.3%
	その他	343	362	▲19	94.8%
	計	686	655	31	104.7%

〔主な商品・役務別の相談に占める高齢者とそれ以外の割合〕

主な商品・役務別に高齢者の割合をみると、「食料品」に関する相談が46.6%と最も高くなっています。

次いで、「運輸・通信サービス」に関する相談が42.1%となっています。通信関係の知識に乏しい高齢者に対し、固定電話のデジタル化により、光回線に変更しなければならないと言って光回線の契約をさせるインターネット接続回線に関する相談が多くを占めています。



③ 高齢者の相談に係る契約等の既払金額

高齢者の相談に係る既払金額等の状況を見ると、お金を支払った人の数、既払金額合計は増加していますが、平均既払金額、最大既払額は減少しています。

(単位：件)

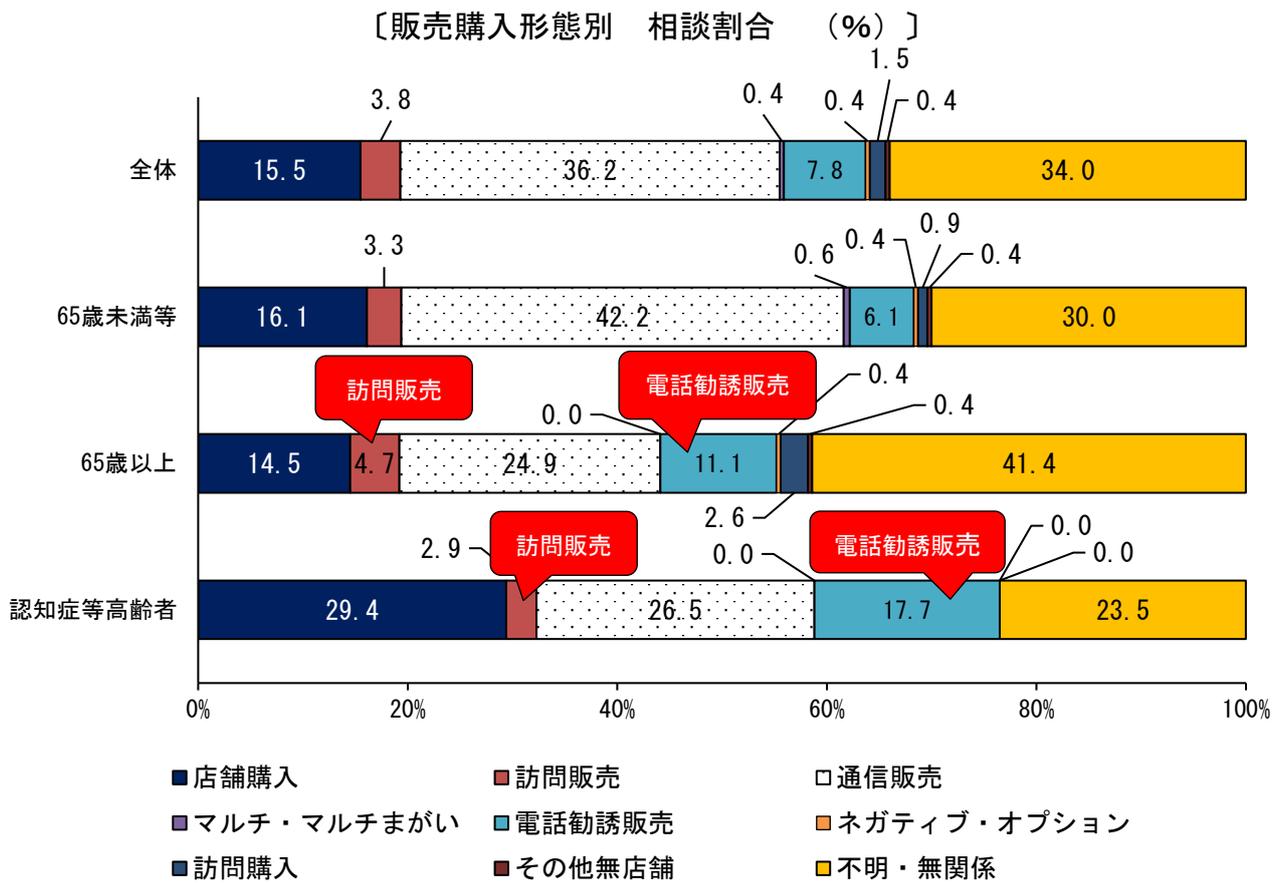
	令和4年 4-6月 (a)	令和3年 4-6月 (b)	増減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
お金を支払った人の数	115人	99人	16人	116.2%
既払金額合計	58,272千円	50,858千円	7,414千円	114.6%
平均既払金額(一人当たり)	507千円	514千円	▲7千円	98.6%
最大既払額	12,800千円	19,150千円	▲6,350千円	66.8%

④ 販売購入形態別相談割合

販売購入形態別で見ると、65歳以上では、65歳未満等と比べて訪問販売や電話勧誘販売が多く、特に認知症等高齢者においてその傾向は顕著です。認知症等高齢者の判断力不足に乘じ、悪質な訪問販売や電話勧誘販売が行われていることがうかがえます。

なお、認知症等高齢者については、訪問販売が2.9%で前年同期(20.0%)より大きく減少し、同様に電話勧誘販売が17.7%で前年同期(24.0%)よりも減少しています。その一方で、店舗購入の割合が29.4%と前年同期(12.0%)と比較し大幅に増加しています。

その他、65歳以上で不明・無関係が多くなっているのは、還付金詐欺や不審な電話やメールの相談がここに分類されることも要因の一つとなっています。



(2) 高齢者の特殊詐欺の状況

① 概況

高齢者の特殊詐欺に関する相談件数は66件で、前年同期より5件(7.0%)減少しています。類型別にみると、振り込み詐欺が43件(相談件数の65.2%)と最も多く、次いで金融商品取引名目詐欺の11件(同16.7%)となっています。

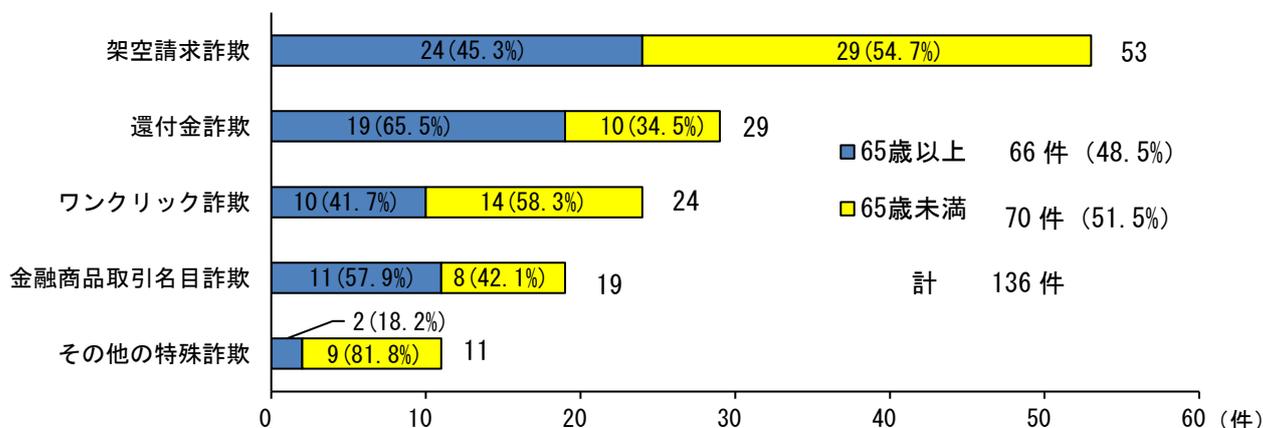
振り込み詐欺のうち、令和3年度に急増した還付金詐欺が19件で前年同期より20件(51.3%)減少しており、特殊詐欺の相談が減少したことの主な要因となっています。

(単位: 件)

類 型	年 度		増 減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
	令和4年 4-6月 (a)	令和3年 4-6月 (b)		
振り込み詐欺	43	57	▲14	75.4%
架空請求詐欺	24	18	6	133.3%
還付金詐欺	19	39	▲20	48.7%
融資保証金詐欺	0	0	0	-
オレオレ詐欺	0	0	0	-
金融商品取引名目詐欺	11	2	9	550.0%
ワンクリック詐欺	10	9	1	111.1%
その他の名目詐欺(宝くじ)	1	2	▲1	50.0%
異性との交際あっせん名目詐欺	1	1	0	100.0%
ギャンブル必勝法情報提供名目詐欺	0	0	0	-
合 計	66	71	▲5	93.0%

② 特殊詐欺類型別に占める高齢者の割合

特殊詐欺類型別に占める高齢者の割合は、還付金詐欺が65.5%と最も高く、次いで、金融商品取引名目詐欺が57.9%となっています。



③ 高齢者の特殊詐欺に係る既払金額

高齢者の特殊詐欺の相談に係る既払金額の状況を見ると、お金を払った人の数は減少しましたが、既払金額合計、一人当たりの平均既払金額、最大既払額は増加しています。

	令和4年 4-6月 (a)	令和3年 4-6月 (b)	増減 (a-b)	前年比 (a/b)
お金を支払った人の数	4人	6人	▲2人	66.7%
既払金額合計	5,660千円	2,389千円	3,271千円	236.9%
平均既払金額 (一人当たり)	1,415千円	398千円	1,017千円	355.5%
最大既払額	5,000千円	1,000千円	4,000千円	500.0%

5 多重債務に関する相談の受付状況

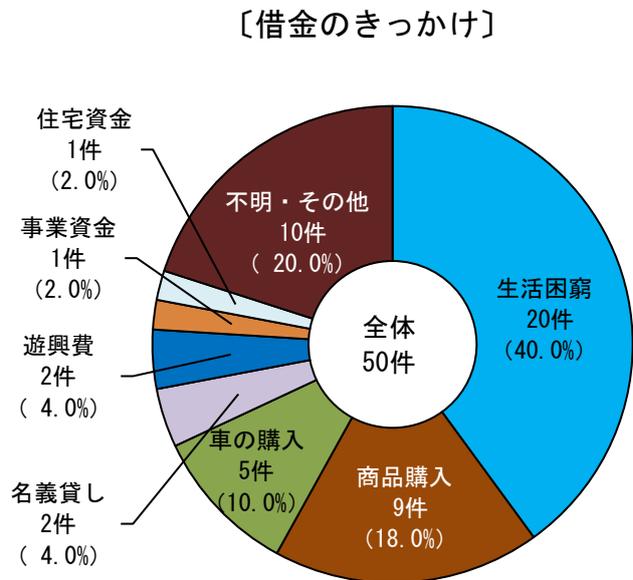
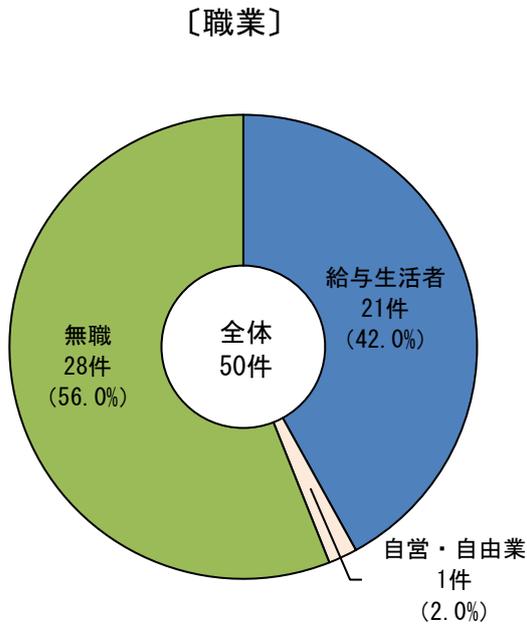
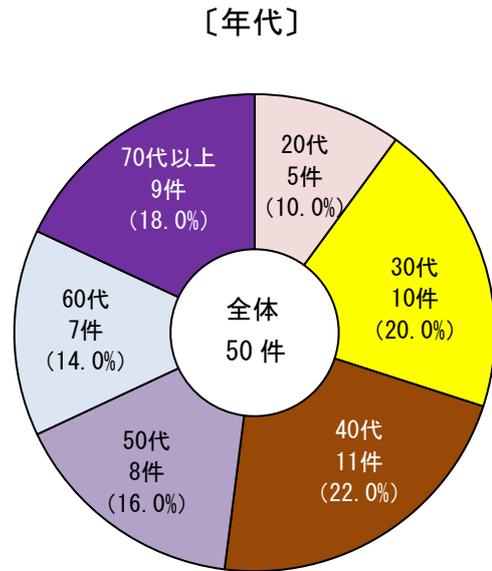
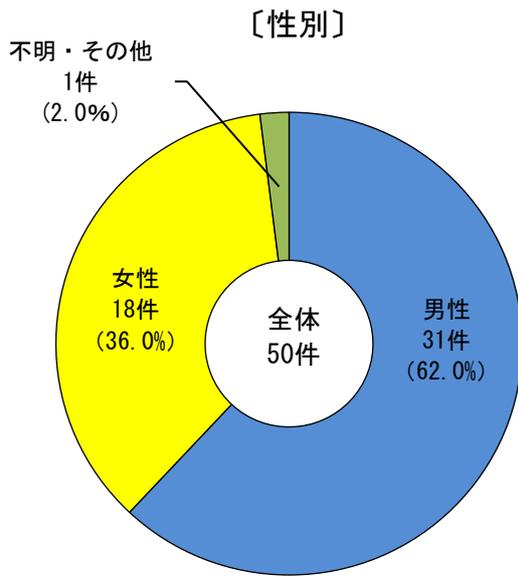
令和4年4-6月における多重債務に関する相談件数は50件で前年度より21件(29.6%)減少しています。(単位:件)

	令和4年 4-6月 (a)	令和3年 4-6月 (b)	増減 (a-b)	前年度比 (a/b)
相談件数	50	71	▲21	70.4%

過去5年間の同時期と比較すると、令和3年度に増加傾向を示したものの、再び減少に転じたことがわかります。

[多重債務相談件数の推移]





6 ヤミ金などの相談の受付状況

令和4年4-6月におけるヤミ金などに関する相談件数は3件で、前年同期と同数でした。

(単位：件)

	令和4年 4-6月 (a)	令和3年 4-6月 (b)	増減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
ヤミ金	3	3	0	100.0%
融資保証金詐欺	0	0	0	-
借金整理屋	0	0	0	-
ショッピング枠現金化	0	0	0	-
計	3	3	0	100.0%